

## 28年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 1

1. 調査実施期間 平成28年 11月1日～ 28年11月10日

## 2. 調査実施方法

全国の国産材製材工場に対し、アンケート調査票を送受することにより実施した。  
11月分の回答企業数は14社である。

## 3. 判断指数の算出方法

各調査項目について以下の方法でウェイト・ディフュージョン・インデックスを算出した。

Weight.D.I.(ウェイト・ディフュージョン・インデックス)={(「増加」の評価を行った回答の割合)×2+(「やや増加」の評価を行った回答の割合)-(「減少」の評価を行った回答の割合)×2-(「やや減少」の評価を行った回答の割合)}÷2  
したがって、この割合がゼロの場合はその増加と減少が等しいことを示し、プラスになるほど増加が多く、逆にマイナスになるほど減少が多いことを示す。

## 4. 調査結果の概要

## ア. 国産材

## (1) 製材用原木荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
入荷動向	スギ	12.5	6.3	12.5
	ヒノキ	25.0	16.7	0.0
	カラマツ	△ 50.0	0.0	50.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0
消費動向	スギ	0.0	6.3	△ 6.3
	ヒノキ	8.3	△ 8.3	△ 16.7
	カラマツ	50.0	0.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 14.3	14.3	28.6
	ヒノキ	0.0	8.3	0.0
	カラマツ	△ 100.0	△ 50.0	0.0
	トドマツ	△ 50.0	△ 25.0	0.0

・スギ及びヒノキ製材原木の入荷は総じて3ヵ月連続して増加傾向。カラマツは11月の減少が、12月は横ばい、1月は増加。トドマツは12月、12月の減少が、1月は横ばい。

・スギ製材原木の消費は11月の横ばいが、12月は増加、1月は減少。ヒノキは11月の増加が、12月、1月は減少。カラマツは11月の増加が、12月、1月は横ばい。トドマツは11月の横ばいが、12月、1月は減少。

・スギ製材原木の在庫は11月の減少が、12月、1月は増加。ヒノキは総じて横ばい。カラマツ及びトドマツは11月、12月の減少が、1月は横ばい。

## (2) 製材原木価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
スギ	50.0	34.4	9.4
ヒノキ	16.7	16.7	16.7
カラマツ	0.0	0.0	0.0
トドマツ	0.0	0.0	0.0

・スギ及びヒノキの製材原木の価格は強含みで推移。カラマツ及びトドマツは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## \* (原木荷動き)

- ・前月から変化はないが、10月は天候が良かったので運材は順調。パレット、建築（道内）も11月までがピーク、12月はパレットも通常ペースとなる（北海道）。
- ・入荷は順調だが、太さのバランスが悪い、大径化している。皆伐の影響か？原木フル消費（5,000m<sup>3</sup>/月消費量）（北海道）。
- ・伐採時期となって出材も少しづつ増えている（関東）。
- ・出材量は変わらないので、当月以降も変わらず入荷。消費も変わらず。冬場に材量が減る可能性は低いので、余り在庫を増やさないように管理（関西）。
- ・ヒノキは、11月～12月に入荷量を少し増やす。消費は11月はやや増やすが、12月・1月はやや減らす。在庫は11月～12月に増やすが、1月は入荷減る見込みで在庫はやや減る（中国）。
- ・入荷に大きな変化はなし、設備上の問題で、稼働率は低下を予想（中国）。
- ・原木市場には順調に出てきている印象、後は天候次第（九州）。
- ・天候も良好、ヒノキは市場に丸太（あり）。需要も順調、生産も順調（九州）。

(原木価格)

- ・トドマツに台風の影響がこれから出てくるか？(北海道)。
- ・ヒノキは出材不足でやや上昇(関東)。
- ・多少の価格上昇はあるが、冬場も出材が安定しそうなので、影響は少ない(関西)。
- ・ヒノキは11月～1月は通してみると、ほぼ横ばいの見込み、但し天候次第(中国)。
- ・製品需要期を迎え原木上昇傾向(中国)。
- ・一部製材品不足により様々な製材メーカーの多量な買付により、単価は全体的に上昇している。但し、製材品の単価が反映されているかが問題(九州)。
- ・ヒノキの製品の売れ行きが悪くなると、価格も下がると思う(九州)。

## 28年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 2

## (3) 製材品荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
生産動向	スギ	0.0	6.3	△ 6.3
	ヒノキ	8.3	△ 8.3	△ 16.7
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 50.0
出荷動向	スギ	31.3	25.0	0.0
	ヒノキ	16.7	△ 8.3	△ 33.3
	カラマツ	100.0	50.0	0.0
	トドマツ	0.0	△ 25.0	△ 50.0
在庫動向	スギ	△ 35.7	△ 21.4	0.0
	ヒノキ	△ 8.3	△ 8.3	25.0
	カラマツ	50.0	0.0	△ 50.0
	トドマツ	△ 25.0	△ 25.0	△ 50.0

・スギ製材品の生産は11月の横ばいが、12月はやや増加するが、1月はやや減少。ヒノキは11月のやや増加が、12月、1月は減少。カラマツは11月、12月の増加が29年1月は横ばい。トドマツは11月の横ばいが、12月、1月は減少。

・スギ製材品の出荷は11月、12月の増加が、1月は横ばい。ヒノキは11月の増加が、12月、1月は減少。カラマツは11月、12月の増加が1月は横ばい。トドマツは11月の横ばいが、12月、1月は減少。

・スギ製材品の在庫は11月、12月の減少が、1月は横ばい。ヒノキは11月、12月の減少が、1月は増加。カラマツは11月の増加が、12月は横ばい、1月は減少。トドマツは3ヵ月連続して減少。

## (4) 製材品出荷価格動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
スギ	柱角 KD10.5×3	25.0	18.8	12.5
	柱角 KD12×3	12.5	12.5	6.3
	通し柱 12×6	12.5	0.0	0.0
	桁角	0.0	0.0	0.0
	母屋角	0.0	0.0	0.0
	タルキ	7.1	0.0	0.0
	間柱	25.0	12.5	12.5
	ヌキ	8.3	0.0	0.0
	平割	0.0	0.0	0.0
	ラミナ	0.0	0.0	0.0
ヒノキ	柱角 KD10.5×3	25.0	8.3	△ 8.3
	柱角 KD12×3	16.7	0.0	△ 16.7
	土台角 10.5×4	33.3	8.3	△ 8.3
	土台角 12×4	25.0	8.3	△ 8.3
	通し柱 12×6	16.7	△ 16.7	△ 16.7
	ラミナ	0.0	0.0	△ 10.0
カラマツ土台角10.5×4	—	—	—	
〃 梱包仕組み板	0.0	0.0	0.0	
〃 ラミナ	0.0	0.0	0.0	
トドマツサンギ	0.0	0.0	0.0	

・スギ柱角及び間柱は強含みで推移。通し柱及びタルキはやや強保合。それ以外のスギ製材品は保合。

・ヒノキ柱角及び土台角は11月、12月の強含みが、1月は弱保合に。通し柱は11月の強含みが、12月、29年1月は弱含みに。ラミナは保合から弱保合に。

・カラマツ梱包仕組み板及びラミナは3ヵ月連続して横ばい。

・トドマツサンギは3ヵ月連続して横ばい。

## モニターからのコメント

## (製材品荷動)

- ・フル生産、出荷は堅調、生産の余裕がややなくなる(北海道)。
- ・スギ、ヒノキ共に販売好調だが、生産増となっていない、在庫は減(関東)。
- ・稼働日並みの生産。年内の出荷は比較的順調、年明け以降の荷動きは不透明。在庫調整中(関西)。
- ・ヒノキの生産は11月は増やす、12月、1月はやや減る。出荷は11月は増え、12月、1月は減る見込み。在庫は11月、1月は増え、12月は減る見込み(中国)。
- ・設備上の問題で稼働率低下を予想。生産性の改善出来ず、出荷数量が伸びない。売れ筋(柱、土台)は製品不足気味(中国)。
- ・一部部材(KD柱、KD間柱)の不足感から生産増を目指すメーカーが一部に見受けられる。プレカット工場も稼働を増やしているが、先が見えないため年内いっぱい忙しいが、それ以降は一服感が出るのではといった見方が多い(九州)。
- ・ヒノキ出荷は11月をピークで12月、1月と徐々に減少。年明けから製品在庫は徐々に増やす(九州)。

(製材品出荷価格動向)

- ・若干弱含み（輸入材との兼ね合い）、繁忙期になれば元に戻るか値上げへ行かざるをえない(北海道)。
- ・間柱 3m×45mm×105mmが若干価格上昇。各種販売好調だが、価格上昇にまでは行かない(関東)。
- ・スギ、ヒノキ共に柱角の品薄感が強く、小幅ながら価格には影響。但し、供給力のない生産環境のためメーカーの希望する水準には至らず(関西)。
- ・ヒノキは11月～1月ほぼ横ばいの見込み、4m 105mm角以外はやや下落する可能性あり(中国)。
- ・スギ柱角は原木値上がりのため、製品価格に多少反映されてきた。ヒノキは慢性的な不足感あるので、値上がり傾向(中国)。
- ・ヒノキは低い所で横ばいから下落へ(九州)。

## 28年11月分 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 3

## イ. 外材

## (1) 製材用原木の荷動き動向 Weight. D. I.

品目		28/11月	12月	29/1月
仕入動向	米マツ丸太	0.0	0.0	△ 100.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
消費動向	米マツ丸太	△ 50.0	0.0	△ 50.0
	NZラジアータ	50.0	50.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—
在庫動向	米マツ丸太	0.0	0.0	0.0
	NZラジアータ	0.0	0.0	0.0
	北洋エゾマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ丸太	—	—	—
	北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の仕入れは11月、12月の横ばいが、1月は減少。ラジアータ丸太は11月、12月の増加が、1月は横ばい。
- ・米マツ丸太の消費は11月の減少が、12月は横ばい、1月は減少。ラジアータ丸太は11月、12月の増加が、29年1月は横ばい。
- ・米マツ丸太及びラジアータ丸太の在庫は3ヵ月連続して横ばい。

## (2) 製材用原木等購入価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
米マツ丸太	50.0	0.0	0.0
NZラジアータ丸太	50.0	50.0	50.0
北洋エゾマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ丸太	—	—	—
北洋アカマツ原板	—	—	—

- ・米マツ丸太の購入価格は11月の強含みから横ばいで推移。ラジアータ丸太は強含みで推移。

## モニターからのコメント

## (原木荷動)

- ・ラジアータ丸太は、例年10月～11月は注文増となる(中国)。

## (原木価格動向)

- ・ラジアータ丸太は、FOB, FRT上昇と為替円安でコストアップとなる(中国)。

28年11月分

## 製材工場の荷動き・価格先行き動向調査 4

## (3) 製材品の荷動き動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
生産動向			
米マツ製材品	△ 50.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	50.0	50.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
出荷動向			
米マツ製材品	0.0	0.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—
在庫動向			
米マツ製材品	△ 100.0	△ 100.0	△ 50.0
NZラジアータ製材品	50.0	0.0	0.0
北洋エゾマツ製材品	—	—	—
北洋アカマツ製材品	—	—	—

・米マツ製材品の生産は11月の減少が、12月は横ばい、1月は減少。ラジアータ製材品は11月、12月の増加が、1月は横ばい。

・米マツ製材品の出荷は11月、12月の横ばいが、1月は減少。ラジアータ製材品は11月の増加が、12月、1月は横ばい。

・米マツ製材品の在庫は3ヵ月連続して減少。ラジアータ製材品は11月の増加が、12月、1月は横ばい。

## (4) 製材品の出荷価格動向 Weight. D. I.

品目	28/11月	12月	29/1月
米マツ平角	0.0	0.0	0.0
米マツ正角	0.0	0.0	0.0
米マツ小割	0.0	0.0	0.0
北洋エゾマツタルキ	—	—	—
北洋アカマツタルキ	—	—	—
NZ梱包材(割板)	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ梱包材(割角)	△ 50.0	△ 50.0	△ 50.0
NZ土木用材	0.0	0.0	0.0
その他	—	—	—

米マツ平角、正角及び小割の出荷は3ヵ月連続して横ばい。

・NZ梱包仕組み板(割板、割角)は弱含みで推移。NZ土木用材は保合。

## モニターからのコメント

(製材品荷動き)

・ラジアータ製材品は、12月より次第に受注減となる(中国)。

(製材品出荷価格動向)

・ラジアータ製材品の価格にはタイムラグがあり、現在の価格は底値、これから値上げしたい状況(中国)。